



航空宇宙産業のさらなる発展のために

本年5月の当工業会第36回通常総会において承認を頂き、新たに常務理事に着任しました秦重義（はたしげよし）です。工業会の活動を支えるため微力ながら全力で職務を全うする所存ですので今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

本年の3月末まで防衛省技術研究本部航空装備研究所長として防衛用航空機・同原動機・誘導武器に係る数多くの研究開発に参画して参りましたが、最後の任務となった次期固定翼対潜哨戒機（XP-1）、次期輸送機（XC-2）の各種試験に於いては、開発に携わる関係各社の方々と今後の航空機産業の発展への期待感を共有することが出来ました。この場をお借りして、これまで本計画に携わった関係各位のご尽力に深く感謝致します。

米国の政治学者で我が国の政治体制について多くの評論のあるリチャード・J・サミュエル教授は1990年代半ばに出版した著書「富国強兵の遺産」において戦後の我が国の航空機産業の発展に関する詳細な分析を行っておりますが、その成功の鍵は防衛装備品のライセンス生産を基礎に「技術の国産化」「技術の普及」「技術（あるいは産業）の育成」を3本柱とした隠れた基本方針にあると記述しています。この基本方針は明示的な指針ではないにも関わらず、我が国の文化と相まって協動的に進められたことから、氏はこの方策を「三音和音」（原文はthree-node chord）と表現しています。

さらにその発展を支えた背景にある関係企業間の連携に注目し、主契約企業どうしの連携による水平方向の技術の普及、主契約企業から下請け企業に至る垂直方向の技術の普及、さらには民生技術と軍事技術の横断的な技術の普及という三次元のネットワークが航空機産業の発展の礎となったと分析し、三音和音のもとに幾多の危機を乗り越え、その結果として防衛力の整備と技術習得を同時に達成した、世界に例を見ない我が国独特の産業育成政策を高く評価しています。

今日、世界の航空宇宙産業は今まで以上に国際

競争力の強化が求められ、今日に至るまでに立派に成長した我が国産業界もより一層の優れた技術基盤を構築することが必要となっています。

今後は競合企業間の競争も促進される環境にあります。同時にこれまでの発展の基礎となった企業間の相互協力を強め、我が国全体に及ぶ優れた技術基盤を培ってゆくことが重要であろうと推測しています。

その一方、我が国の宇宙関係では国際競争への参入を期する規模の産業化までには至っておらず、これまでに培った宇宙開発の技術基盤をさらに産業化に向けるため、先ずは宇宙基本計画の着実な推進が期待される状況であると承知しています。

日本航空宇宙工業会はこれまでも工業会で実施した研究や調査等について、報告書や説明会を通じ、その成果を工業会に所属する会員各社に伝達するとともに、これら企業群の下請けに位置づけられる関連企業にも技術が波及するように努めて来ましたが、これらの活動は我が国の航空宇宙分野の技術協力や技術の普及に大きな役割を担ってきたものと理解しています。

2012年秋に開催を計画している国際航空宇宙展（Japan Aerospace 2012）は開催場所を名古屋地区に置き、我が国の技術力を広く国外に示す機会のみならず、国際間の協力を含めた多くのビジネス機会を提供する場となるよう現在、国際航空宇宙展実行委員会が中心となって企画を進めております。

今後の広報活動を通じて、多くの関係企業の参加を求め参加企業にとって有益な展示会となるよう、さらなる活動を強化して行きます。今後の関係企業各位の幅広い御参加を期待するものです。

当工業会は今後とも、我が国航空宇宙産業の発展のため、関係各社間で情報を共有できる環境を作るとともに研究・調査等の活動を通じて政策への要望や提言等を行ってまいります。

今後とも皆様からの御指導、御鞭撻を期待するものであります。